

標 題：病害虫発生予察調査データから見た平成年間における水稲の主要病害虫の発生動向

著者名：藤田 究

香川県農業試験場研究報告 第71号（2020年3月）29-40

病害虫防除所で実施した病害虫発生予察事業の調査データから平成年間30年の水稲の主要病害虫の発生状況を取りまとめ、発生動向に関する分析と考察を行った。その結果、平成初め頃は発生が多かったが、その後減少傾向となった病害虫として、ばか苗病、ごま葉枯病、セジロウンカ、トビイロウンカ、コブノメイガ、また平成初め頃は発生が少なかったが、次第に増加した病害虫として、フタオビコヤガ、斑点米カメムシ類、さらに平成初め頃は発生が多く、その後減少傾向であったが、終わり頃には再び増加した病害虫として、いもち病、紋枯病、縞葉枯病があげられた。これらの発生動向の変化は、薬剤の施用法を含む病害虫防除方法の変化、温暖化に伴う気象条件の変化、病害虫の薬剤に対する感受性低下、水稲の栽培方法や栽培管理の変化等によるものと考えられた。

キーワード：水稲、発生予察、発生動向、病害虫、平成